

マイナ保険証 加算見直しへ

政府は二十四日、「マイナ保険証」を巡り、対応する医療機関が受け取る診療報酬の加算を見直す方向で本格検討に入った。医療機関の取り組みを促し、カードの普及につなげるため、四月から加算しているが、患者の窓口負担が増える」と批判が相次いだ。開始直後の見直し検討は異例。

六月にまとめる政府の経済財政運営の指針「骨太方針」に反映。見直しの具体策や、医療機関への財政支援などは、今後、中央社会保険医療協議会（虫医協）や厚生労働省の審議会で話し合ひ。

後藤茂之厚労相は二十四日の記者会見で、「診療報酬上の(?)取り扱いについて検討していく」と述べた。マイナ保険証を読み取る機械の導入などが現在は医療機関の任意だが、二〇一一年四月から原則義務化。

四月から加算しているが、患者の窓口負担が増える」と批判が相次いだ。開始直後の見直し検討は異例。

四月から加算しているが、患者の窓口負担が増える」と批判が相次いだ。開始直後の見直し検討は異例。

マイナ保険証 普及策の利点と欠点

- マイナ保険証で受診する場合と、医師が投薬歴などを把握でき、治療に生かせる
- マイナンバーカード自体の取得率向上も狙える
- マイナ保険証に対応した医療機関では、患者の窓口負担が増える
- かえって利用を敬遠され、逆効果になる恐れ

患者負担に批判相次ぐ

カード普及策裏目

健康保険証の機能を持つマイナンバーカード「マイナ保険証」を巡り、医療機関への診療報酬を上乗せする仕組みが見直しを迫られた。低迷するカード取得率を向上させる普及策の一つだったが、患者の負担増に理解を得られず、焦りが裏目に出た形だ。参院選を夏に控え、岸田政権は世論を意識して軟着陸を探る。

政府、参院選控え世論意識

▼「ハートムがある」とは承知している。金子恭之総務相は二十四日の記者会見で、マイナ保険証に対応した医療機関で患者の窓口負担が増える年に、各方面から苦情が出ていることを認めた。

普及策は、医療機関に支払われる診療報酬の改定で四月に導入したばかり。マイナ保険証を使うと、医師が患者の投薬歴などを把握でき、治療に生かせる。対応医療機関を増やすため診療報酬を加算したが、その

分、患者の支払いは増える。普及策への批判は、導入当初から国益でも相次いでいた。負担増でかえって利用を敬遠されるとして「逆効果だ」といった指摘が与野党からあった。

効果だ」といった指摘が与野党からあった。

普及が進まない背景には番号制度への不信感がある。政府はマイナンバーと金融機関の口座のひも付けを義務化しようとしたものの、情報管理への不安が相次ぎ、断念した経緯がある。

政府は最大一千万分のポイントを付与する「マイナ保険証の手続など」ポイント」第1弾として、

患者負担が増えるため「妊娠婦税」との批判が噴出。一九年一月に凍結し、その後廃止に追い込まれた。菅相が患者の投薬歴などを把握でき、治療に生かせる。対応医療機関を増やすため診療報酬を加算したが、その

うつに批判が高まるか分からぬ。マイナ保険証での受診による負担増を見直せば患者には恩恵となるが、医療機関の収入は減り、カードの普及が遅れかねない。政

府関係者は「世論を踏まえて判断する」と述べ、参院選を見据えて代わりの手立てを見極める考えを示した。